



長崎県保険医協会／こども医療長崎ネット

妊産婦さん13,000人の声

「妊産婦さんの医療費助成に関するアンケート」
結果報告



長崎県保険医協会

はじめに

長崎県保険医協会会長 本田 孝也



2019年7月、新潟県上越市で開催された全国保険医団体連合会の北信越ブロック会議に参加しました。そこで各県の妊産婦医療費助成制度が紹介されました。妊産婦医療費助成制度とは妊産婦の窓口自己負担金を助成する制度です。恥ずかしながら、そのような制度があることを初めて知り、これは長崎でも必要な制度だという思いを強くして帰路につきました。

妊産婦医療費助成制度は岩手、栃木、茨木、富山県では全県で実施、それ以外の県でも市町村独自の制度として実施されています。助成対象や助成額は自治体によって異なります。

九州では大分県の臼杵市だけが実施しており、母子健康手帳の交付月の初日から出産月の翌月の末まで窓口自己負担金が全額助成されます。長崎県で実施している自治体はありません。

2021年4月、長崎県保険医協会はこども医療長崎ネットと共同で長崎県内の妊婦ならびに子育て中の保護者を対象にアンケート調査を行いました。

アンケート用紙を保育園・幼稚園、婦人科標榜医療機関、助産師会等に送付、途中からインターネットによる調査も加えました。アンケートの反響は大きく、6月末までに1万3,000件を超える回答が寄せられました。ご協力いただきました皆様に、この場を借りまして御礼申し上げます。

「妊娠期間を通して医療費や健診代にかかる自己負担は、どう感じますか」に対して、全体の60.4%が「非常に高い」あるいは「高い」と回答し、58%が妊産婦医療費助成制度を「ぜひつくってほしい」と回答しました。自由意見欄では自己負担に関するものだけでなく、産後うつやコロナ禍における孤独の問題、医療費や健診、子育てにかかる経済的問題に関する切実な意見が多数寄せられました。

2022年3月、大石賢吾氏が新知事に就任しました。大石氏は子育て支援と教育環境の充実を政策に掲げています。妊産婦医療費助成制度についても実現を目指すと力強く約束してくれました。

一朝一夕にはいけないと思いますが、これから妊産婦医療費助成制度の創設に向けてがんばっていきたいと思います。本冊子はそのための第一歩と考えております。ご活用いただければ幸いです。

目 次

はじめに

調査方法 1

調査結果

回答者の基本属性 1～3

＜妊娠経験のある方へ＞

（１）妊娠中に、健診以外に産婦人科の診療を受けましたか？ 4

（２）妊娠期間を通して医療費や健診代にかかる自己負担は、どう感じますか？ 5

（３）妊娠中の医療機関受診で困ったこと 5

＜出産経験のある方へ＞

（１）妊娠、出産を原因とする体の不調を感じたことがありますか？ 8

（２）妊娠、出産を原因とする精神的な不安定さを感じたことがありますか？ 9

（３）長崎県内市町での産後健診、産後歯科健診の実施についてどう思われますか --- 10

＜すべての方へ＞

（１）「妊産婦医療費助成制度」をご存知でしたか？ 11

（２）「妊産婦医療費助成制度」の長崎県内の市町での実施についてどう思われますか 11

自由意見 12

まとめ 14

参考資料

医療と福祉を考える長崎懇談会会報「医療と福祉70号」（抜粋） 16

長崎県知事への要望書 18

長崎でも妊婦さんへの助成を（長崎保険医新聞） 19

標準的な“妊婦健診”の例（厚労省） 20

長崎県「妊産婦さんの医療費助成に関するアンケート」用紙 21

◆調査方法

【実施期間】 2021年 4 月14日～ 6 月30日

【対 象】 妊婦、子育て中の保護者

【配布先】 長崎県内の保育園・幼稚園、婦人科標榜医療機関、助産師会等

【方 法】 アンケート用紙（A 4 版1枚・両面）を郵送し（46, 571枚）、郵送・F A X・インターネットで回答。

【回答数】 13, 032枚（紙での回答12, 382枚、ネットでの回答650）

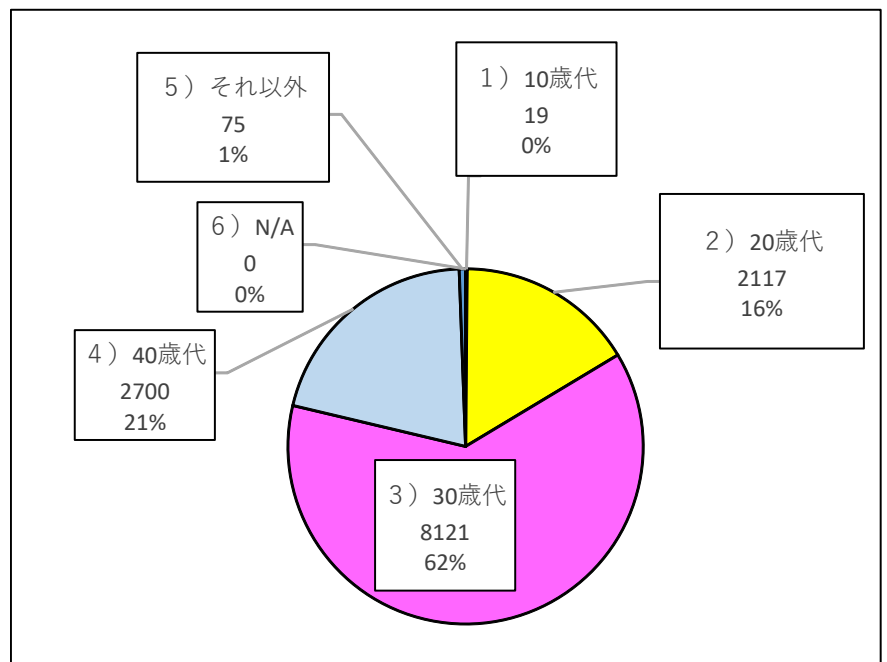
◆回答者の基本属性

1. あなた（アンケート記入者）について

（1）年齢は？

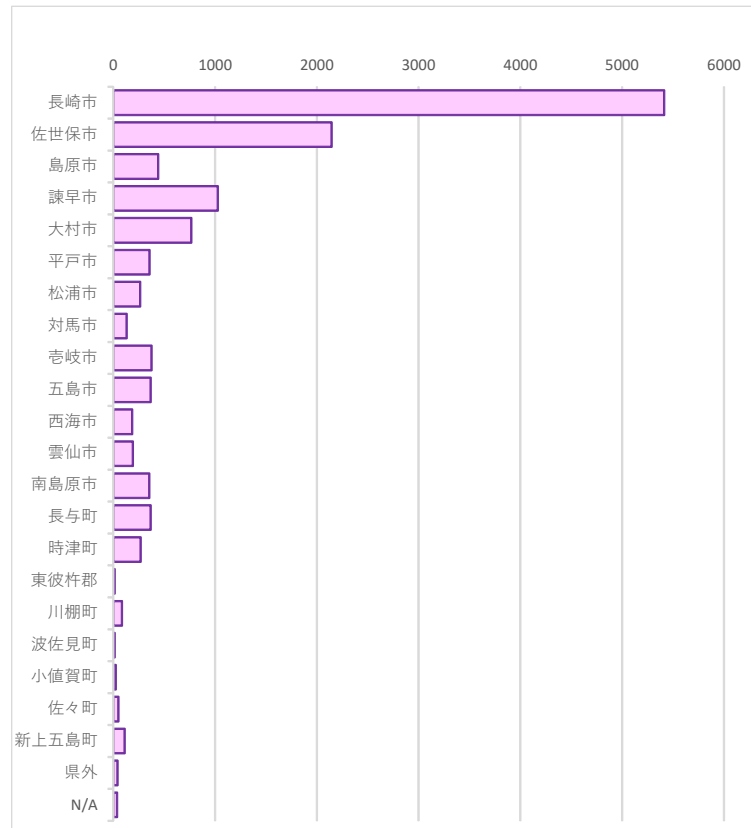
年齢→ 1) 10歳代 2) 20歳代 3) 30歳代 4) 40歳代

人	
1) 10歳代	19
2) 20歳代	2117
3) 30歳代	8121
4) 40歳代	2700
5) それ以外	75
6) N/A	0



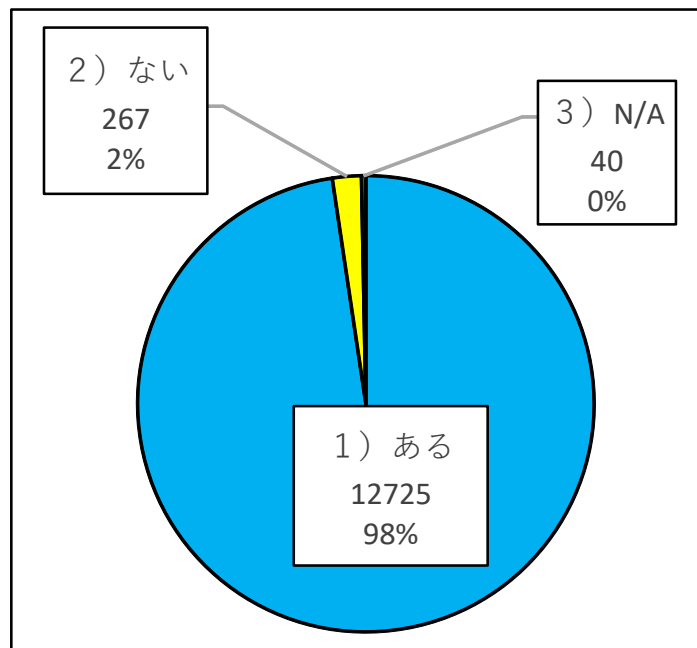
(2) あなたの現在のお住まいは？里帰り中の方は里帰り先の住所をご記入ください。

1) 長崎市	5412
2) 佐世保市	2145
3) 島原市	441
4) 諫早市	1026
5) 大村市	767
6) 平戸市	357
7) 松浦市	265
8) 対馬市	132
9) 壱岐市	375
10) 五島市	366
11) 西海市	186
12) 雲仙市	192
13) 南島原市	353
14) 長与町	368
15) 時津町	268
16) 東彼杵町	14
17) 川棚町	86
18) 波佐見町	13
19) 小値賀町	25
20) 佐々町	50
21) 新上五島町	112
22) 県外	42
23) N/A	37



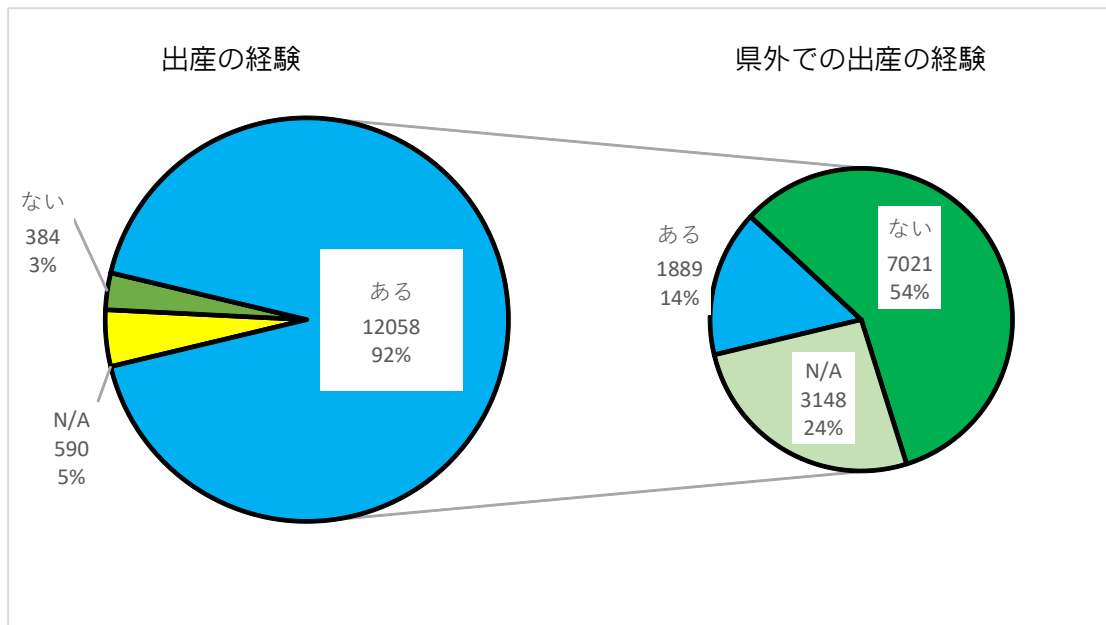
(3) 妊娠(流産・中絶を含む)・出産した経験はありますか(現在妊娠中も含む)？

妊娠 1) ある 2) ない



出産

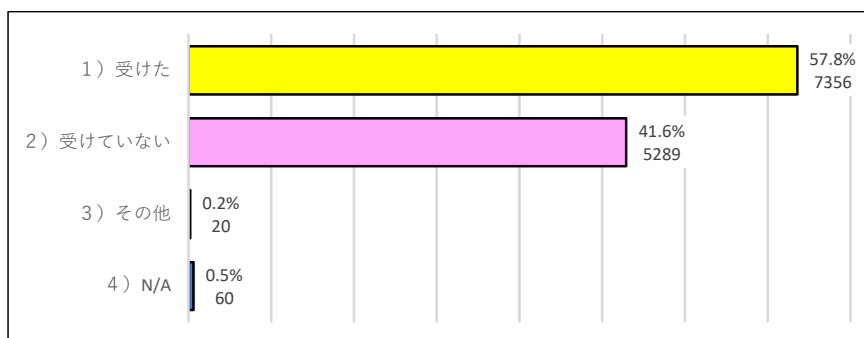
- 1) ある →長崎県以外での出産の経験は？ ある（ ）都道府県 ・ ない
 2) ない



2. 妊娠経験のある方におたずねします

(1) 妊娠中に、健診以外に産婦人科の診療を受けましたか（現在妊娠中も含む）？

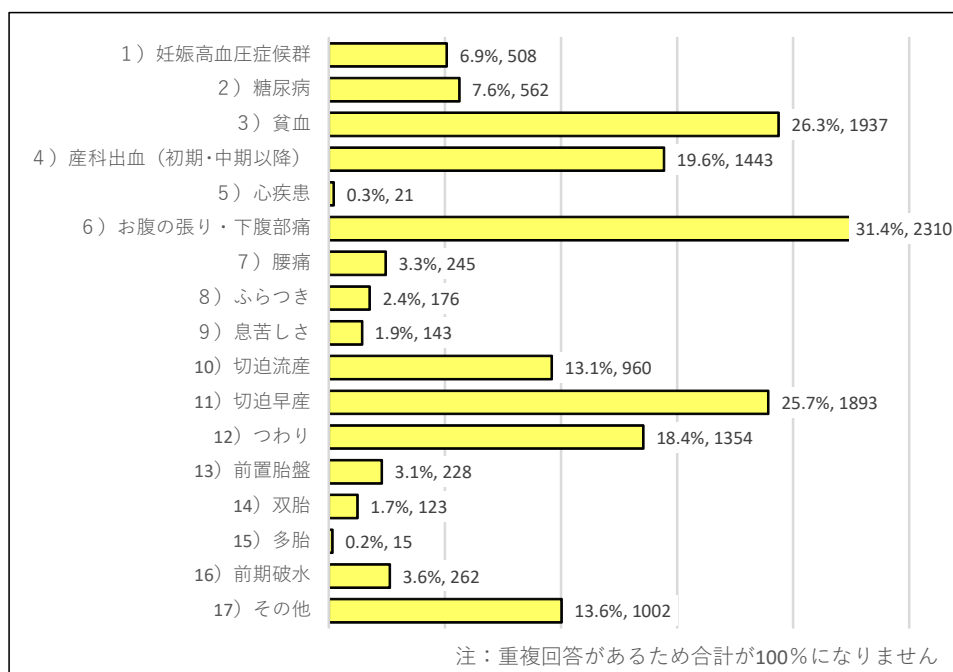
- 1) 受けた 2) 受けていない 3) その他



<「受けた」とご回答の方>

→①産婦人科での診療の場合、下記のどれにあてはまりますか？（重複可）

- 1) 妊娠高血圧症候群 2) 糖尿病 3) 貧血 4) 産科出血（初期・中期以降）
 5) 心疾患 6) お腹の張り・下腹部痛 7) 腰痛 8) ふらつき 9) 息苦しさ
 10) 切迫流産 11) 切迫早産 12) つわり 13) 前置胎盤 14) 双胎 15) 多胎
 16) 前期破水 17) その他(※)



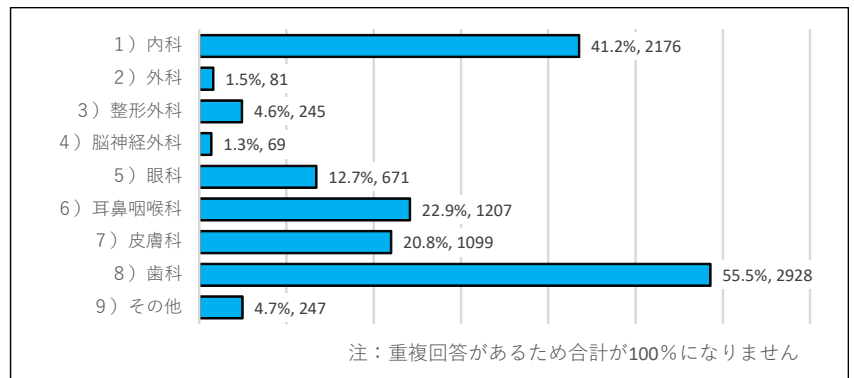
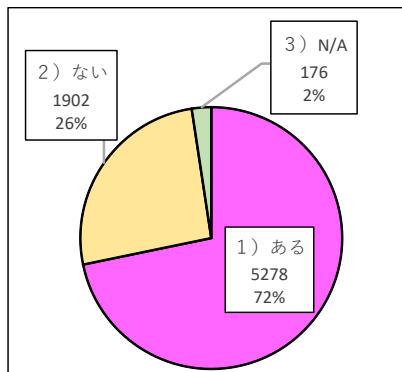
※17) その他の記述（抜粋）

高度異形成（上皮内癌）／高プロラクチン血症／Rh式不適合妊娠／カンジダ症／クラミジア／逆子／子宮筋腫／子宮外妊娠／子宮頸がん／子宮頸管炎／子宮頸部異形成／死産／切迫子宮破裂／染色体異常／絨毛膜下血腫／早期胎盤剥離／第12因子欠乏症／虫垂炎合併妊娠／チョコレートのお胞／低位胎盤／トキソプラズマ感染／乳癌／乳腺炎／妊娠うつ病／妊娠水腎症／バルトリン腺嚢胞／ポッター症候群／卵巣奇形腫／卵巣茎捻転／卵巣のう腫／卵膜剥離／子宮腺筋症／子宮頸管無力症／児頭骨盤不均衡／胞状奇胎／胎児発育不全／痔

→②妊娠中に、産婦人科以外の診療科を受診したことがありますか？ある場合に○をしてください（重複可）。

- 1) ある→ 1) 内科 2) 外科 3) 整形外科 4) 脳神経外科 5) 眼科 6) 耳鼻咽喉科
7) 皮膚科 8) 歯科 9) その他（※）

2) ない

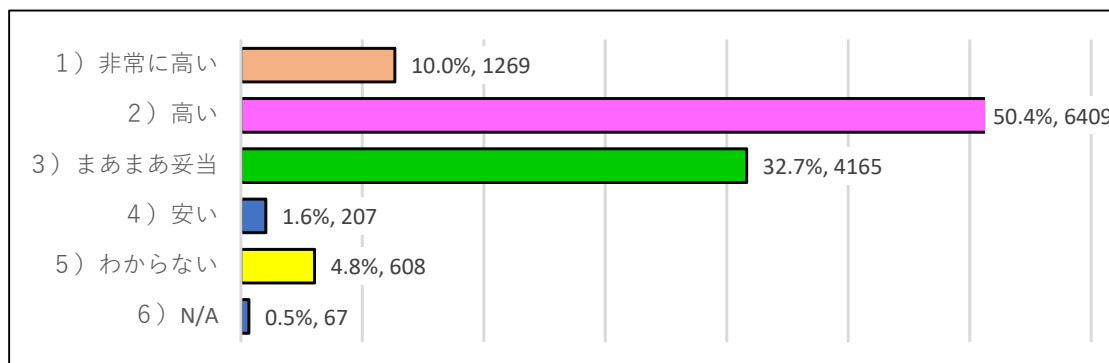


※9) その他の記述（抜粋）

遺伝カウンセリング／緩和ケア／形成外科／血液内科／血管外科／口腔外科／膠原病科／甲状腺科／肛門科／消化器科／神経内科／心臓血管外科／心療内科／精神科／総合診療科／内分泌内科／泌尿器科／めまい外来／メンタルクリニック／リウマチ科

(2) 妊娠期間を通して医療費や健診代にかかる自己負担は、どう感じますか？

- 1) 非常に高い 2) 高い 3) まあまあ妥当 4) 安い 5) わからない



(3) 妊娠中の医療機関受診で困ったことをご記入ください（抜粋）

【医療機関】

- ・ 双子でおなかの大きいのに洋式トイレが少なかった。
- ・ エレベーター設備がなく、階段しかなくつらかった。
- ・ 駐車場が空いてない時があって遠くの駐車場にとめてそこから往復歩くのが大変だった。自分ひとりだけならまだよかったが上の子が小さい時だったので連れて歩くのが大変だった。
- ・ コロナ前でしたが咳がでていと健診が受けられなかったこと。
- ・ 県外から里帰りした時に受け入れ産婦人科が見つかりにくかった。妊娠中期の受け入れ体制が整っていないと思う。
- ・ 産婦人科では安定期以降の歯科健診をすすめられますが歯科に行くとあまりいい対応をされない。
- ・ 10代の妊婦に対する病院の対応や目線がひどかったです。
- ・ 妊娠中という理由で投薬してもらえない、病院たらいまわしで産科で頼み込んだこと。
- ・ ものもらいで眼科、带状疱疹で皮膚科を受診したがいつれの時も処方薬を服用してよいのか尋ねると、自分で産科に確認をとってといわれました。安全性を考慮すると産科医への確認は必須でしょうが、他診療科のドクター同士が連携をとることはできないのかと思いました。
- ・ 交通事故にあい、産婦人科受診後、自分自身の体の検査の為診察を希望したが、妊娠中であること

を理由に救急病院全てに断られた。

- ・予定帝王切開だったが、マタニティ学級では自然分娩の話ししかなく、聞きたかった事は聞けず、参考にならず時間の無駄だと思った。
- ・双胎のため健診回数が多く管理入院も長かった。

【コロナ禍】

- ・夫が県外勤務だったため、接触後は2週間診察・健診が受けられず予約をとるのが大変で困った。
- ・コロナの影響で立ち会い出産等が全くできず、とてもさみしかった。両親学級もなく、不安だらけだった。
- ・コロナ禍のため体調不良時でも家族がクリニックに入れず、荷物の運搬などで不自由した。

【きょうだい】

- ・2歳以下の兄弟は「まだ上手に待てないので健診に連れてこないで」と言われたこと。
- ・小さい上の子を連れての受診が大変。受診の際、そばにいて上の子と一緒に待ってくれるサポーターがいるとありがたい(イメージとしては近所のおばあちゃん)。託児ではなくあくまでも一緒に見てくれる存在。そうすれば、世間話ついでに子育ての悩みや愚痴も話せる。悩みを解決してくれなくていい。ただ言葉が通じる大人と会話がしたい。一日中乳幼児というお母さんの中にはそういう人が多いと思う。孤立しがちな母親は、誰かとどうでもいい会話をしただけで気持ちが救われたりするから。

【薬・治療】

- ・妊娠中の人が飲める薬を処方されましたが、副反応が出て薬を飲まない方が良かったのか悩みました。
- ・薬を処方されると飲んでいいかドキドキした。内科で大丈夫と言われても不安で産婦人科にきいたりしていた。
- ・妊娠中だと伝えているのに飲まないほうがいい薬を処方されたことがある。薬局の指摘により薬を変更されました。

【交通手段・通院】

- ・無料の妊婦用タクシーがあれば、いいなと思ったことが何度かあった。
- ・1人での通院が不安。タクシー利用したいが金銭的に難しい。
- ・交通機関について。バスや電車に乗るのが怖かったです。(コロナ)私は自家用車で送迎してもらっていましたが、例えば、妊婦用にタクシーチケットや補助金が出てもいいかなと思います。

【地理的条件】

- ・島なので、一日がかりで健診に行かなくてはならず、第2子以降の妊婦健診は子連れまたは子どもを預けて行くので、肉体的・精神的負担が大きかったです。妊娠周期中の体調の変化や張りなど、気がかりなことがある時にすぐ受診できず心配でした。
- ・まず、離島で産婦人科がないので、妊婦健診に本土まで通うだけでもかなり大変。昨年出産したので、その上コロナの影響もあったので島外に出るのがかなり不安だった。私の場合、個人の産婦人科では対応できず、大学HPでの健診→出産だったので仕事をしながら上の子を連れて泊りがけで病院は1日かかりだったので、とても大変だった。
- ・市内に産婦人科がなく通院が大変。特に妊娠後期、遠方への車での通院が負担だった(8か月のときに追突事故された)。
- ・佐世保市は受診できる産科医院の選択肢が少ない。妊娠中の運転は避けるよう指導を受けるが徒歩圏内に産科の病院がない。

【医療費】

- ・妊婦健診での受診券を利用しての診察でも、受診券の対象外の検査項目が多すぎて、自己負担金が高くかかっていて困った。
- ・後期になると1週間に1回以上の受診。毎回いくらかかるのか不明なのでいつも1万円持っていけないといけな。これからお金がかかるのに大変でした。
- ・ほぼ毎回エコー代3,000円かかるのが大変でした。低所得世帯やひとり親には本当に痛手だと思います。
- ・診察の度に診察代金がバラバラだったり、クーポンを使える健診なのかそうじゃないのかわからないので、困った。

- ・医療費が高く受診できない時があった。
- ・色んな検査も受けなくてはならないし、その為の出費も物凄く高い。だから不安だけど2人目以降は検査を受けていない。
- ・妊娠は病名がつくものではありませんが、自費である検査も、必要不可欠なのであれば費用の負担を減らすことも検討してほしいです。
- ・県外では健診の時医療費がかからなかったのが長崎県で健診の度に医療費がかかったのはびっくりでした。
- ・診察料が高いから、ちょっとしたことで受診できないと感じた。
- ・双子だったので健診用のチケットが妊婦一枚分しか支給されず、けれど双子なので通常の2倍健診に通い自費でした。1人出産する方は良いでしょうが、双子を妊娠している方には負担かと思います。
- ・甲状腺の既往があり、妊娠中は毎月血液検査代などがかかり負担が大きかった。
- ・切迫早産で入院した時、仕事(パート)を急遽休職する事になり無給に…。支払いができるか不安でいっぱい入院になりました。
- ・高齢出産のため心電図や心拍(NST)があり自己負担が多かった。
- ・出産予定日が過ぎて、妊婦健診の券が無くなり、それでも1週間ごとに病院へ行かないといけなくて、その時の診察代が自費で高かったです。
- ・胎児に異常があった場合の検査費が全額自己負担だったことがとてもつらかった。子どもの命が心配なのに、さらにお金の心配もあり、精神的に追い詰められる。
- ・無料で受診できる回数が少ない。特に妊娠後期の金銭負担がきつい。内科も助成がほしい。

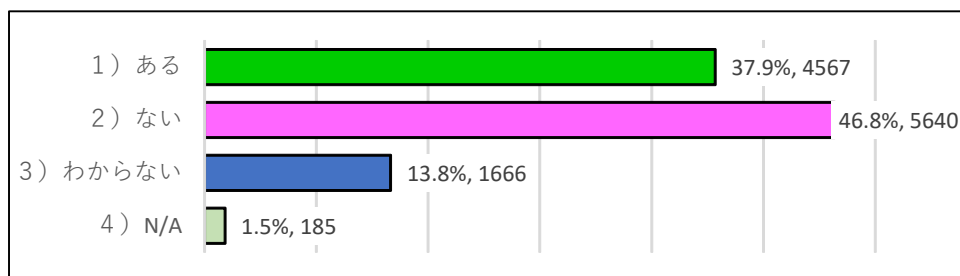
【その他】

- ・心のケア(不安だったので)
- ・歯科検診に行っておけばよかったです。
- ・職場の理解があまりなく、受診するための休みが取りにくかった。
- ・仕事をしているので、土曜日しか予約ができなかった。平日に1日くらい18時半までの日があると助かります。助成があるので健診にお金がかからないと思っており色々とお金が必要で驚きました。
- ・妊娠中の精神状態を個人病院ではなかなか話せなかった。産後うつは良く周知されているが、妊娠うつは自分自身でも知らなかったのが、個人病院でも対応・相談できるような方や情報があれば良いと思う。
- ・佐世保市に転勤で来たが知り合いもおらず土地勘もなく、夫婦の実家は県外でコロナ禍のつわりと夫の長期出張が重なり、頼れる人がいなく生きる事に精一杯だった。
- ・女医さんのいる産婦人科が少なく残念。選択肢が少ない。助産院が長崎市内にあれば良いと思う。増やすべき。長崎市はもっと女性と子どもが暮らしやすい町作りをしてほしい。

3. 出産経験のある方におたずねします

(1) 出産後1年以内に、妊娠、出産を原因とする体の不調を感じたことがありますか？

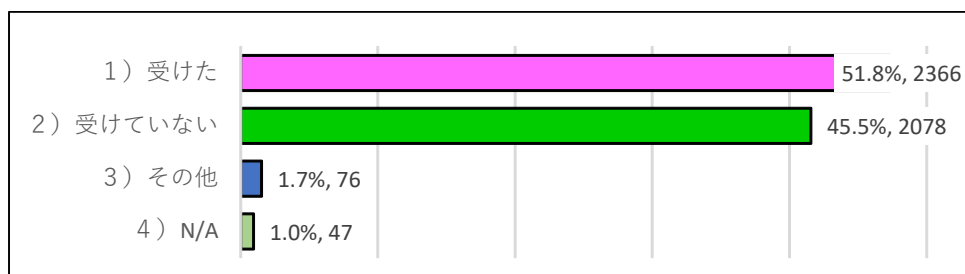
1) ある 2) ない 3) わからない



<「ある」とご回答の方>

→産婦人科の診察を受けましたか？

1) 受けた
2) 受けてない →(理由: 下記)
3) その他

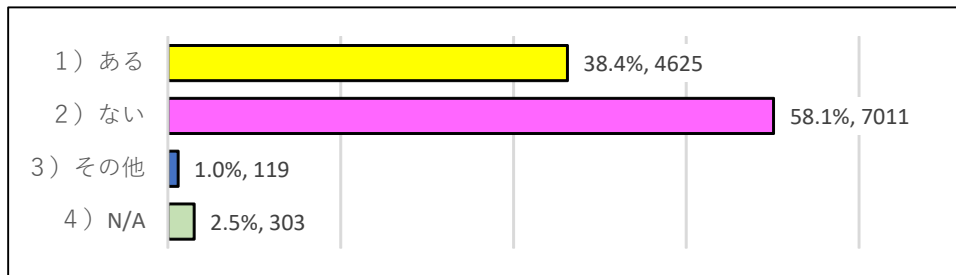


産婦人科の診察を受けていない理由（抜粋）

- ・電話対応で様子見で落ちついた為
- ・健診の際に聞いた
- ・1ヵ月健診が終わったら産婦人科は卒業ですよと病院で言われたため。
- ・産科に電話をしたら内科（出産後）は診察を受けるよう言われた。
- ・行っても変わらないと思ったから。高いしもったいない。
- ・一時的なことで授乳中で薬が簡単に飲めないため。
- ・赤ちゃんのお世話を託す人がいない、コロナが気になり我慢。
- ・子供を預けてまで受診する必要があるかわからなかったため。子供預けるのも有料ですし。
- ・予約して行くほどではないと思ってしまう。コロナ禍なので病院にも嫌がられると思ってました。
- ・行く時間、手段がなかった。
- ・行く気力がない。
- ・診察を受けるという発想がなかった。
- ・我慢できる範囲でそういうものだったと思った。
- ・みんなそうだった。甘えなんじゃないかと思った。
- ・睡眠不足やゆっくり食事をとれていなかったり原因がわかっていてから。
- ・産後の育児疲れになどによるものだったと思ったので、受診しても薬の処方もないし、対処してもらえなかった。
- ・預ける人もおらずガマンすれば治るかと思いました。
- ・ネットで調べて、大丈夫だろうと自己判断した。
- ・帝王切開の場合傷口が治る際のひどい痒みだったので、我慢すればよいかと思い、自己判断で傷口のシールをはがしました。結果4年たった今、傷口がキレイに治らなかったため受診しなかったことを後悔しています。
- ・健診は個人の産婦人科（遠い）、出産は総合病院で、どちらを受診すべきかわからなかったし、総合病院は紹介状等わからず行きづらかった。
- ・骨盤がぐらついて慢性的な身体の痛み、他腰痛などもひどかった。ストレスもひどく、ウイルス性の胃腸炎にもなったりしたが、このような症状は産婦人科で診てもらえるとは思えない。

(2) 出産後1年以内に、妊娠、出産を原因とする精神的な不安定さを感じたことがありますか？

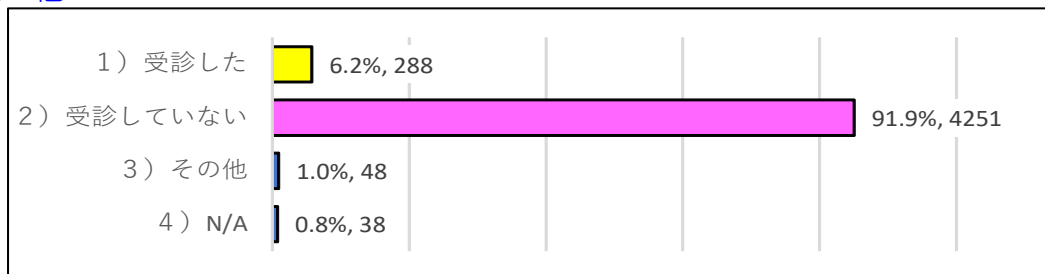
1) ある 2) ない 3) その他



<「ある」とご回答の方>

→そのときに、心療内科・精神科を受診しましたか？

1) 受診した
2) 受診していない →(理由:下記)
3) その他

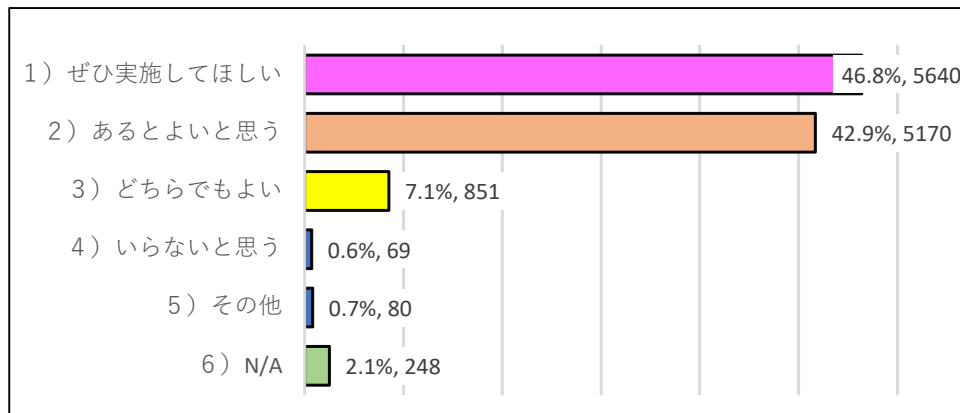


精神科・心療内科の診察を受けていない理由（抜粋）

- ・ 家族の支えがあり、徐々に回復できた為。
- ・ 子育て支援センターなどを利用して積極的に外に出て人と話したりして精神的な安定が得られていたから。
- ・ 産婦人科ショートステイを利用したり、市の保健師の方に来てもらい話を聞いてもらった。
- ・ 1か月健診でしっかり話を聞いてもらえた為。
- ・ 心療内科や精神科を受診するのが怖かった。お金がいくらかかるか分からず、お金に余裕もなかったので行けなかった。
- ・ 薬に対して強い不安があり、保健師さんに相談したきりにしてしまっていた。
- ・ 子供を連れて長時間の診察は難しい。病院に行く気力・体力がない。
- ・ 島外まで産後ででかけることが大変だったため。コントロールができた。
- ・ 育児・仕事があるので診察へ行く時間がない。
- ・ 産後のホルモンバランスのせいだとわかっていたので。
- ・ 子育てに追われ精神科関連の病院に行く暇がなかった。出産後はよくあることだからと家族の誰も心配してくれなかった。
- ・ イライラ（産後1か月）は寝不足によるものと感じたから。
- ・ 一時の事と耐えてしまいましたが、今の子育て奮闘中の方は一人で抱え込まず色々な機関を頼る事もおすすめです。
- ・ 行くためのハードルが高い(家族の理解や周りの目が気になる)。
- ・ 本当に精神的に不安定な時はクリニックを探すのも出掛けるのも億劫だったので、自力で探すことができないと思えない。
- ・ その時は自分が不安定だとわからなかった。後になってわかった。
- ・ 産後うつをケアできる病院が分からなかった。何度も通院するのは時間的に厳しいと思ったから。
- ・ その時は出産が原因と思わなかった。ただ自分はおかしいのだと思うばかりでした。
- ・ 産後直後、数週間後に家に戻る民生委員のおじちゃんのアドバイス、産婦人科の出産経験者の話し聞きやアドバイス・もうそんなのはいらなくて、初めての出産で、分からない事だらけの自分には、こうしたらいとか助言はプレッシャーでしかなく、病院を受診したところで、家事・炊事・洗濯が無くなるわけではない。結局、自分で耐えて、ガマンして、すごすしかない。病院の受診をすすめるより旦那がいる人への育休取得をすすめてほしい！

(3) 長崎県内で産後健診を実施しているのは4市（長崎市・壱岐市・雲仙市・南島原市）で、産後歯科健診を実施しているのは2市（長崎市・佐世保市）しかありません。産後健診、産後歯科健診についてどう思われますか？（1つのみ）

- 1) ぜひ実施してほしい 2) あるとよいと思う 3) どちらでもよい 4) いらないと思う
5) その他（※）



※5) その他の記述（抜粋）

- ・産後健診について知らなかったのによくわからない。
- ・産後歯科は知らなかった。
- ・知っているが、対象となる診療内容が浅すぎる。
- ・実施してほしいが健診に行く時間的余裕がない為期間を長くしてほしい。健診中子供を見てもらえると受診しやすいと思う。
- ・あるとよいと思うが、自分だったら行く時間が取れなかったと思う。忙しく預ける人もいなかった為。
- ・産後に行く余裕がない
- ・あった方がよいと思うが安心して受診ができるよう子供の預け先など体制を整えてほしい。子どもの預け先がなく歯科検診は受けられませんでした
- ・産後歯科健診と託児がセットでないと受けに行こうと思わない。
- ・結局、乳児を連れての受診となり、負担になる（心身とも）。
- ・産後健診はぜひ実施してほしい。産後歯科健診は受診する余裕がなかったので、子供の健診時に母親も診てもらえると助かると思う。
- ・良いことですが、産後歯科検診を受けた歯医者で健診チケットではみきれない、クリーニングもできないからと後日に行ったら、歯を削られそうになった。時間作って行ったのに。
- ・受けましたが、確か同日に健診以外の処置はできないとのことでした。時間をやりくりしてきていたので1日で済めばいいのと思った。
- ・健診のみで定期的なメンテナンスを同時に治療してもらえず、二度手間だったため。
- ・産後健診はぜひ実施して欲しい。産後歯科健診はいらないと思う。虫歯のある場合は二度手間になると言われたので。
- ・産後歯科検診を受けたが、レントゲンやら実施されて、無料と言われ行ったのに。結局通常の料金を払った。騙された気分になったので2回目はない。
- ・産後歯科健診を受けたが、簡易なもので、通常の検診の方が良く診れるし治療もできるという事で、そちらをすすめられた。なので、今のシステムではあまり意味がないと思った。
- ・長崎市内でしたが、私が通っている歯科医院では実施しておらず、自己負担でした。歯科健診より骨盤のズレによる腰痛等があるのでそちらに力を入れてほしい。
- ・個人病院の多くは実費で産後健診をしていると思うので平等に全県内で公費で実施したらいいのと思う。

4. すべての方におたずねします

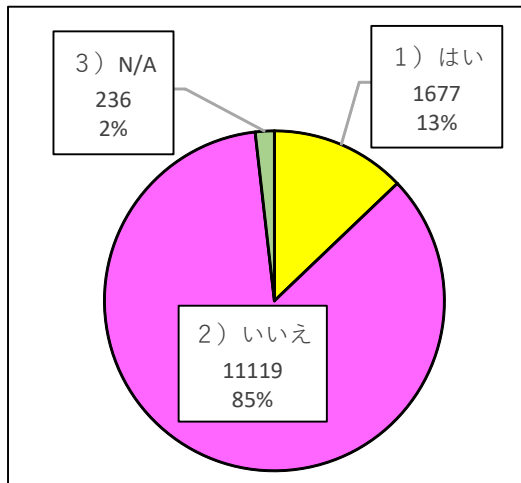
- (1) 他県や市では、妊産婦さんを対象に医療費の自己負担分を補助する「妊産婦医療費助成制度」があります（たとえば、富山県では妊娠に関連した疾患は出産翌月まで医療費自己負担が無料、岩手県では出産翌月まで全ての疾患で妊産婦医療費助成制度が受けられます*）。

この制度のことをご存知でしたか？

* 県や市町など地域によって対象や範囲、内容に違いがあります。詳細はこちら→

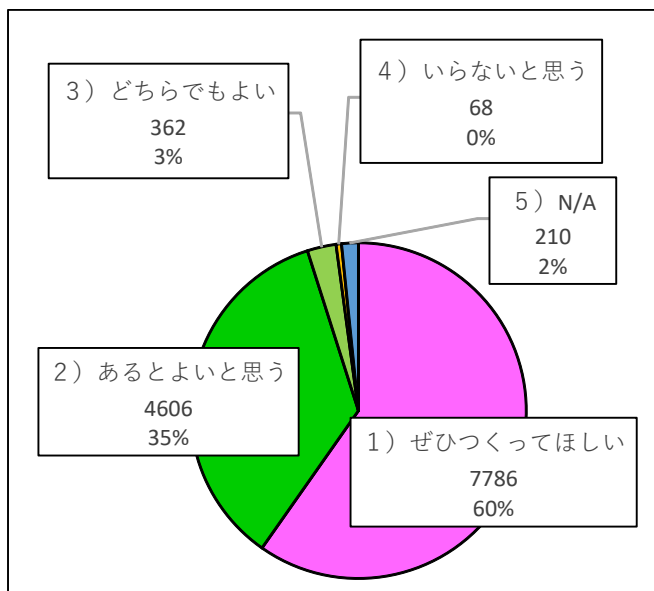


- 1) はい 2) いいえ



- (2) 「妊産婦医療費助成制度」は長崎県内の市町で実施してるところはありませんが、制度の創設についてはどう思われますか？（1つのみ）

- 1) ぜひつくってほしい 2) あるとよいと思う 3) どちらでもよい 4) いらないと思う



5. 自由意見欄（抜粋）

【コロナ禍 関連】

- * 金銭的負担が大きいことはもちろん、気軽に相談のできる状態をとってほしい。実家は両家ともに県外にあるため、手伝ってくれる人はおらず引っ越したばかりで友人もおらず、コロナ禍で母親学級もなかったためママ友もおらず、とにかく孤独な妊娠と出産と育児です。出産も旦那だったら立ち会い可能にすべき。共に生活しているわけだから、今更立ち会い禁止にする意味がわからない。とにかくただひたすら孤独だった。
- * コロナが原因で夫が同席受診が出来ないため、夫から直接先生に質問したり、子を見ることができず、父親になる自覚が湧きにくいようです。何かいい打開策があれば講じて頂けると助かります。
- * 夫が県外に行く仕事なので、妊娠の可能性があったとしても、すぐに病院にかかれないだろうなという不安があります。諦めるしかないのかとも思うところです。家庭環境は様々なので、もう少し医療機関に受診しやすかったら、不安も解消されるのかな？と思います。
- * 夫が県外出張が多かったが、コロナ禍で病院では県外の人との接触だけでも2週間は受診できなかったため、検診が遅れてしまって困ることがあった。
- * 地元を離れての初産のため、近くに相談できる人が全くおらず、コロナで母親教室等にも参加できず、妊娠を喜んでくれる人や一緒に過ごしてくれる人がいないため、孤独で精神的におかしくなりそうです。この状況で出産して、自分の精神状態が子どもに悪影響を及ぼすのではないかと不安で仕方ありません。

【医療費 関連】

- * 出産には様々な助成制度がありますが、それ以外に思っていたより本当にお金がかかります。妊娠中も産後も子どもが第一で自分の事は後回しにしがちですが、妊娠出産を機に体力や抵抗力が一気に低下し、様々な不調が出てきました。妊産婦医療費助成制度は必要だと思います。
- * 産院によると思いますが毎回エコー代がかかるため経済的な負担は大きいのではないかと思います。（妊娠後期は検診が2週間や毎週になってくるので…）
- * DVで経済的困難にされている人にとって、医療費は凄いネックになってます。妊娠中私も心配で、診察終わって看護師さんからの質疑応答で、泣いたことありました。
- * 一人親や低所得者には様々な配慮がありますが、共働きで子供たくさんいて金銭的に困っている家族へは厳しい世の中だと思います。お金があればもっと子供を産みたい、育てたいと思いますが、実際ムリで、子供が増えると仕事を続けるのにも大変です。どうにか変えて行って欲しいです。
- * 妊娠出産にかかる医療費が自己負担ゼロになるのが理想です。

【妊婦健診 関連】

- * 経済的理由で妊婦検診を受けられない方がたくさんいます。
- * 妊娠出産にはとにかくお金がかかるという印象を持ちました。妊婦健診も毎回エコー検査があるのに補助券には含まれない回も多く、そのたびに自己負担3000円、産休取得のために証明書発行し2500円、さらには母子手帳をもらう前にも何度も受診しましたがそれらはすべて自己負担。新しい生命を生み出すことの喜びはもちろん大きいのですが、経済的負担がありすぎて、これでは少子化が進むのも無理はないと思います。

【地理 関連】

- * 島は交通の便が不便。妊娠中の運転は不安だったが自家用車で受診するしかなかった。バスやタクシーで受診できるように交通費の手当てがあると嬉しい。
- * 波佐見町の近くに産婦人科が少なく県外の産婦人科に通院していたので近くにあれば安心してマタニティライフを送れるようになるのではないかと思います。
- * 長崎市南部に住んでいます。産婦人科が無く、とても不便でした。出産直前まで自分の運転で長崎大学病院に通いました。駐車場の渋滞で坂道で待つのはとても辛かったです。
- * 佐世保市の離島に住んでいます。健診の交通費用の援助をして頂けるのですが、申請が面倒だし、つわりが酷く病院との行き来だけでも精一杯なのに,, , と思った事もあります。

【こども医療費 関連】

- * 産んだ後の…小児医療費に関しても、予防接種の無料化をもっと枠を広げてほしい。
- * 小児科が少ないのでふえてほしい。
- * 子供の医療費もタダにしてほしい。
- * 小児科に行って一目見ただけでこれは皮膚科に行ってくださいと言われ、それだけで800円も払わさ

れた。

- * 6年前の切迫早産時に、もしいま出産すると、県内で産めません。佐賀県に搬送します。と言われ、本当に不安でした。NICUの充実も急務ではないでしょうか。

【子育て支援 関連】

- * 産後の悩みはとりあえずここに電話していいよ、とわかりやすい受付先が欲しいです。
- * 第3、4子の双子を出産したが、兄弟児の世話をしながらの双子乳児の世話は凄まじいものがあり、必死すぎて記憶はほぼありません。産後検診やファミサポなど産後のケアまでしてあげて欲しいです。
- * 産んで終わりの育児ではないので、子どもが成人するまでの助成がもっとほしい。
- * 子育てにかかるお金がだいぶいろんな制度ができて助成をいただけていたりして助かっているのですが、まだ足りません。現金給付でなくてもいいのです。おむつ券、ミルク券、ベビーフード券などあったら助かります。子どもは欲しい、育てたい、でもお金がないから諦めると…。自分たちが生きていくだけでも必死です。

【不妊治療 関連】

- * 不妊治療を開始しようとしたが、長崎では病院の選択肢が少ない。不妊治療を含む妊娠や出産に対する助成やサポートが他県にくらべて少なく感じる。これでは若い世代の県外への流失は加速するし、私のように他県から移り住んだ人たちの満足度も低い水準のまま。本気で改革して欲しい。
- * 妊婦に対する制度も大切ですが、少子高齢化が進む今、妊娠に向けての不妊治療に対する助成制度も充実させてほしい。
- * 妊婦健診より不妊治療助成金について検討して欲しい。市によって助成金も違うので統一して欲しい。
- * 私は不妊治療をして1年に100万円以上かかっています。妊娠したあとはたくさんお金がかからない世の中になって欲しいです。

【行政などへの意見】

- * 金銭的な不安があり子どもを産むか考えたり、不妊治療を諦めたりという選択になっていくと思うので、金銭的な部分を助成する制度が他の都道府県なども含めて差がないような形だと良いと思う。
- * 働いている女性の多くは出産後、育児休暇を取得し収入が激減またはゼロになります。働いていた頃は自分に掛かる経費(携帯代や保険代)は自分で払えましたが、支出が無くなれば貯金を切り崩すか家計の支出として払ってもらわないといけなくなります。プラスして子供に掛かるお金で収入が減るのに支出は増える。少しでも助成があれば、凄く助かると思いますし、金銭面で子供を諦めている家庭の助けになると思います。
- * 同年代の恋人と将来の話もしますが、金銭的な面から長崎で子どもを生み育てることは到底考えられません。
- * 産休に入り収入が減ることによる生活費の補助を希望。
- * 妊娠期間中体調不良などでの休みが増えて減給もあっているのに、育児休業期間中の給付金の計算に、育児休業開始前6ヶ月間の支給額での計算ではなく、妊娠期間前の支給額で計算して欲しいです。
- * 妊娠初期はつわり、中期から後期にかけては切迫早産のため仕事が数ヶ月できない状態になりました。そういう場合の休暇制度や補償や補助を作って欲しい。
- * 今現在の長崎県の対応は妊婦、子育て世代にとっては厳しい県だと思います。働きたいのに働けなく収入は減るのに出費は増える。育休取得できる所が本当に少ない。産後もオムツやミルク子供の病院代等でかなりお金がかかります。職場復帰するにも育休がなければ再就職を見つけなければならないです。しかし子供が小さいと呼び出しがかなりあるのでなかなか見つけるのも大変。保育園に入れないと再就職も探せない。悪循環でしかありません。
- * 若い男女に妊娠・出産・産後の夢のような喜びだけでなく、現実的なリスクや社会的な課題を知る機会をもっと増やして下さい。また、子育ては性別関係なく参加できるように、育休が当たり前にとれるように企業に呼びかけ、罰則を作ってください。このままでは、長崎で生活し続けるのは無理です。もう「今までそうだったから」の枠にはまる時代ではありません。
- * 妊娠、出産は病気ではありませんし、個人の自由なので、全過程において援助をとというのは違うかもしれません。ですが、妊娠、出産を女性は命懸けで、自分の人生を子どもに捧げる覚悟で行います。社会的地位や、心身の変化を受け入れながら頑張っています。金銭的な不安もたくさんあります。不妊治療を受けている方々も、同じです。それを少しでも理解出来る社会にしてください。これは、女性だけの問題では無いはず。男性がどれだけ協力し、支えになってくれるかが重要です。心身的、社会的、金銭的に安心して妊娠、出産、子育てが出来る機会を平等にみんなに与えられる社会にしてください。子どもを産み育てることが、本来の希望を持って行える社会を望みます。

まとめ

妊娠中、産後の医療費にかかる負担を軽減し、安心して妊娠・出産・子育てできる環境を

今回のアンケートは、妊婦さんや子育て中の保護者を対象に、紙でのアンケートのほか、ネットでも実施し、1万3千人を超える方々からの回答がありました。市民団体による調査としては非常に大きな反響であり、県民の関心が高いことがわかります。特に自由意見欄への記載が数多く、妊娠・出産期に抱える困難な状況が浮き彫りとなりました。

<回答者>

・**回答者**の殆どが妊娠（流産・中絶含む）した経験があり（98 %）、9割が出産の経験（92 %）がありました。そのうち、15 %が県外での出産経験があり、県別にみると「福岡県」「佐賀県」「熊本県」「鹿児島県」「大分県」の順で九州が圧倒的に多く、そのあとに「東京」「神奈川」「大阪」と続きました。

<妊娠中>

・**妊娠中に、健診以外に産婦人科の診療を受けた方**は 57.8 %で、「お腹の張り・下腹部痛」（31.4 %）が一番多く、「貧血」（26.3 %）、「切迫早産」（25.7 %）、「産科出血（初期・中期以降）」（19.6 %）、「つわり」（18.4 %）と続きました。定期健診での出費の他にも、医療費の出費があることがわかります。

・また、**妊娠中の産婦人科以外の受診**は、72 %が「ある」と回答し、そのうち一番多いのは「歯科」（55.5 %）で、「内科」（41.2 %）、「耳鼻咽喉科」（22.9 %）、「皮膚科」（20.8 %）と続きました。歯科受診が多いのは、妊娠期は女性ホルモンの影響で口腔内にトラブルを起こしやすかったり、つわり（悪阻）により十分に口腔清掃が行えず、むし歯や歯周疾患のリスクが高くなり、歯科受診する妊婦さんが多いと思われます。また、そのため県内の多くの市町が妊婦歯科健診事業を実施しており、歯科受診と回答した人が多かったとも考えられます。

・**妊娠期間を通して医療費や健診代にかかる自己負担**については、「高い」（50.4 %）と「非常に高い」（10.0 %）をあわせて6割が高いと負担を感じており、若い世帯の家計を圧迫していることが窺えます。妊娠・出産は生涯のなかでも大きなできごとです。新しい家族を迎える喜びと希望がみなぎる一方、出産・育児への不安が入り混じるこの大変な時期に、受診での自己負担が重くのしかかっています。医療機関窓口で財布の中身を心配しなくてよいよう、妊産婦医療費助成制度を創設し、経済的負担を軽減することが求められています。

・**妊娠中の医療機関受診で困ったこと**については、各市町ごとに負担軽減策として「無料券」や「受診券」「補助券」などを発行していますが、「受診券を利用しても対象外の検査項目が多すぎて自己負担金が高くなって困った」「毎回いくらかかるか不明なのでいつも1万円持って行く」と多額の出費にあえぐ声は数え切れないほど多く寄せられ、中には、「医療費が高くて受診できない時があった」「2人目以降は検査を受けていない」など胎児や母体の生命が脅かされかねない事実も浮き彫りになりました。「子どもの命が心配なうえに、経済的にも心配で精神的に追い詰められた」というジレンマも。

また、コロナ禍ゆえ立ち会い出産は制限され、家族の付き添いもなく孤独な出産をした妊婦さんの声や通院時の公共交通機関での三密を避けるため、無料妊婦用タクシーを求める声もありました。さらに、「コロナの影響もあり、島外に出るのがかなり不安だった」「島なので一日がかりになり、子連れまたは預けての健診は肉体的・精神的負担が大きかった」など離島が多い長崎県ならではの悩みも多数寄せられました。

<産後>

・**出産後1年以内に、妊娠、出産を原因とする体の不調を感じたこと**の「ある」方は 37.9 %で、そのうち半数が産婦人科の診察を受けています（51.8%）。「受けていない」方は 45.5 %で、その主な理由は、「我慢した」「様子をみたら落ち着いた」と答える方が多い一方で、コロナ禍のため病院受診がためらわれたり、赤ちゃんの預け先がないという方もいました。

・**出産後1年以内に、妊娠、出産を原因とする精神的な不安定さを感じたこと**の「ある」方は 38.4 %で、前述の妊娠・出産を原因とする体の不調と同程度でした。しかし、そのうち9割が心療内科や精神科を

「受診していない」と答え、「体の不調」での時との受診行動の違いが顕著になりました。受診していない理由は、家族や保健師、産婦人科、子育て支援センターなどでの支えがあり、回復できたからというケースも数多く寄せられました。一方、「病院に行く気力体力がない」「心療内科や精神科を受診するのがこわかった」「家族の理解や周りの目が気になる」ために受診を控えてしまい、現代の社会問題化している産後うつに繋がっていく状況も多々あり、産婦の「孤独」への対策が緊急に求められます。

・**長崎県内市町での産後健診、産後歯科健診**については、産後健診を実施しているのは4市のみ、産後歯科健診をしているのは2市のみという状況を鑑み、「ぜひ実施してほしい」（46.8 %）と「あるとよいと思う」（42.9 %）と約9割が産後の健診についても市町が実施することを希望していることがわかりました。

＜妊産婦医療費助成制度＞

・「**妊産婦医療費助成制度**」については、全国では設けている県や市町村もありますが、長崎県内では実施している市町は皆無で、制度のことを知っている人はわずか 13 %と認知度の低さが浮き彫りになりました。

・一方、**制度創設**については、9割以上が創設を希望し、「あるとよいと思う」（35 %）との回答を「ぜひつくってほしい」（60 %）が上回り、切実な要望が示されました。現在、「こども福祉医療費助成制度」が各市町で実施されていますが、妊娠時期からの経済負担軽減策は手薄です。長崎県としても妊産婦さんの願いにこたえて、安心して妊娠・出産し、子どもを育てることができるよう、ぜひとも制度創設を希望します。

＜自由意見＞

・コロナ禍においては、様々や制約があり、家族が健診や受診に付き添うこともできず、母親学級も実施されないため、妊婦同士のつながりもなく、出産の立ち会いもできず、孤独な妊婦さんの姿が浮き彫りになりました。夫も受診に同席して胎児の様子をみたり、質問することができず、父親になる自覚がわきにくいとの声もありました。

・妊娠中の医療機関受診をはじめとするご苦労や、出産後の体調不良を我慢し、受診できずにいる状況がわかりました。特に産後うつが社会問題となっている現代において、長崎県も例外ではなく、精神的な不調を感じても精神科・心療内科等への受診を控えている状況が明らかになりました。

・産後は、赤ちゃんのケアや上の子の世話を優先にする母親が多く、自分の体調不良への対処は後回しになりがちです。妊娠出産を機に体力や抵抗力が低下して、不調がでても受診を控えるケースも多々ありました。

・不妊治療での高額な医療費、治療できる医療機関の少なさなどの指摘もあり、不妊治療の充実を求める声も多く寄せられました。また、双胎妊娠の場合、単胎より健診の数が多くなりますが、無料券が1人分しかもらえず、自己負担が嵩むとの指摘もあり、改善の必要性が明らかになりました。

・「お金があればもっと産みたい、育てたい」「産んで終わりの育児ではないので、子どもが成人するまでの助成がもっとほしい」「こども医療費を無料にしてほしい」など妊娠・出産・子育てへの切れ目のない経済的支援をのぞむ声も多く、子育て支援の充実がさらに求められています。

大石長崎県知事にも期待します

2022 年2月の県知事選に当選した大石賢吾新知事は公約に「子どもに対する医療費支援と必要な物資等の支給」を掲げ、長崎県保険医協会が実施した予定候補者アンケートでは「妊産婦医療費助成制度の創設及び妊産婦検診制度の充実・拡充」について、次のように前向きな回答をいただきました。

「県民の皆様が不安なく子どもを産み、育てたいと思える環境を提供するため、妊産婦医療費助成制度について、積極的に検討したいと考えます。人口減少対策は、長崎県のリーダーとして取り組みたい最重要課題の一つです。妊産婦医療費助成制度のほかにも、不妊治療の支援強化や出産育児一時金の増額、オムツなど子育てに必要な物資支給、18歳まで医療費助成制度の適応拡大など、長崎県として『一緒に子ども産み、一緒に子どもを育てる』という気概で、積極的な支援に取り組んでまいります。」

アンケートに寄せられた声や大石知事の公約など、「安心して妊娠・出産・子育てできる環境」の芽が今まさに出てきました。皆で育て、成長できたらと願っています。

「赤ちゃんがおなかに
いる!」「まもなく新し
い家族が増える」：とて
も幸せな気持ちになりま
す。その一方で、「妊娠
中、意外と医療費がか

かって不安」と感じる妊
婦さんも多くいます。
妊婦さんは、約10カ月
の間に14回～16回の妊婦
健診を受診しますが、そ
の妊婦健診の費用は保険

ご存知
ですか?

拡がりつつある 妊産婦の医療費 助成制度



自己負担の軽減が妊婦・少子化対策に効果的

対象外となるため、医療
費が嵩みます。さらに、
妊婦さんの体には様々な
変化が生じるため、貧血
や妊娠高血圧症候群、糖
尿病などの病気もあり、
早めの受診・治療が必要
です。しかし、現在のコ
ロナ禍で経済が落ち込
み、収入が減るなか、若
い世帯の家計への医療費
負担は大きな打撃とな
り、「受診控え」による
お腹の赤ちゃんや母体へ
の影響も懸念されます。
こどものすこやかな成長
のためには、妊娠初期か
ら出産後1年までの時期
に必要な医療がしっかりと
受けられることが重要
です。

現在、「こども医療費
助成制度」は全国に拡が
り、一部負担金を補助し
て家計の負担を軽減し、
子育て支援の有効な施策
となつていきます。同様
に、「妊産婦医療費助成
制度」を実施して、一部
負担金を減額・免除して
いる自治体が全国にあり
ます(次頁参照)。九州
では臼杵市(大分県)の
みですが、青森・岩手・
栃木・富山の4県では、
県として制度を創設して
妊産婦の経済的負担を軽
減しています。

近年、母体の高年齢化

に伴い、妊娠
高血圧症候群
や妊娠糖尿病
など合併症のリスクは増
加し、出産後の産後うつ
などメンタルヘルスケア
の需要も高まっています。
妊婦に対する窓口負
担の軽減や、出産・育児
などにかかる費用の負担
を軽減することは、少子
化が進む日本において重
要な施策です。安心して
出産し、子育てができる
ためには、本来は国によ
る制度の創設が必要で
すが、自治体独自に実施
することもできます。まず
は地域の妊産婦さんの切
実な声をあげていくこと
が大切です。

医療と福祉

◆発行◆
医療と福祉を考える
長崎懇談会
◆連絡先◆
長崎市恵美須町2-3
長崎県保険医協会
TEL095-825-3829
FAX095-825-3893

主な記事

○寄稿「地域で繋げる支援の輪」
らいふながさき「地域力フェス」
運営責任者 下村千枝子：3面
○リレー投稿「長崎市のひとり親世帯
支援の現状と課題」
ひとり親家庭福祉会ながさき
事務局 山本倫子：4面

会員の皆様へ お知らせ

① 新型コロナウイルス感
染症拡大防止のため、秋に
開催予定の第30回定期総会
は中止といたします。活動
報告・活動計画・決算・予
算については、10月開催予
定の世話人会にご一任くだ
さい。

② 「医療と福祉のてびき」
改訂版を2021年4月に発行
予定でしたが、コロナの状
況をみながら、発行を1年
延期いたします。



全国における妊産婦医療費助成制度

(妊娠中毒症医療費助成制度又は妊娠中毒症等療養援護を除く)

都道府県	実施主体	対 象	自己負担金	所得制限	給付方法	入院食事
北海道	せたな町	母子健康手帳の交付月の初日から出産月の翌月の末	医療費の1割 月額上限(通院9,000円、入院28,800円)	なし	償還払い	×
青森	国保(全県)	国民健康保険加入者で、妊娠届出受理日から出産の翌月末の外来医療費(入院は対象外)	なし	なし	現物給付	×
岩手	全県	妊娠5カ月目の月の初日から出産月の翌月末	月額上限(通院1,500円、入院5,000円) ※監護者又は本人市町村民税非課税の場合は自己負担無し	監護者又は本人の所得。児童扶養手当準用(国基準に80万円上乘せ)	現物給付	×
秋田	小坂町	母子手帳交付の翌月1日から出産の翌月末	なし(助成上限5万円)	なし	償還払い	×
福島	喜多市など16市町村	国保加入者で妊娠5カ月目の月の初日から出産月の末日まで(妊娠4カ月目の月の初日からや、社保も対象にしている市町村あり)	なし	なし	現物給付 一部償還	×
栃木	全県	母子健康手帳の交付月の初日から出産月の翌月の末	月額上限(通院500円、入院500円)	なし	償還払い	×
茨城	全県	母子健康手帳交付月初日から、出産月の翌月末。ただし、妊娠の継続と安全な出産のために治療が必要となる疾病または負傷で、産科・婦人科受診のみ	通院1日600円、月2回まで 入院1日300円、月3,000円 限度	本人及び配偶者の所得が扶養親族数0人で622万円以下	現物給付	○
新潟	新潟市など28市町	申請日の翌月初日から出産月の翌月末(新潟市)など自治体で異なる	通院1日530円、月4回まで 入院1日1,200円 (上記の他1/2補助や自己負担なしの自治体あり)	自治体で異なる	自治体で異なる	一部自治体低所得者○
富山	全県	妊娠高血圧症候群、糖尿病、貧血、産科出血、心疾患及び切迫早産に罹患している妊産婦で、妊産婦医療費受給資格登録申請書受理日の属する月の初日から出産月の翌月末	なし	旧児童手当法特例給付準用	現物給付	×
石川	能美市、志賀町	母子健康手帳交付後(志賀町:妊娠)～出産の翌月末日までのうち、出産のための入院を除いた期間で、妊娠に伴い生じた疾病によるものと医師が証明した分 ※出産のための入院期間は、保険診療が発生し、出産費用が出産育児一時金を上回った場合(医療機関の証明は不要)	なし	なし	償還払い	×
長野	飯山市、佐久市、軽井沢町、南牧村、立科町、大桑村	母子健康手帳の交付を受けた月の初日から出産した月の翌月の末日まで(飯山市)など自治体で異なる	月額上限500円(レセプト単位)(南牧村は300円)	なし	償還払い	×
愛知	東海市	母子健康手帳交付日から出産の前日まで。ただし、産婦人科受診のみ。	なし	なし	市内: 現物給付 市外: 償還払い	×
三重	津市	妊娠5カ月以上の妊産婦で、出産した月の翌月末	通院1月1,500円 入院1月1,500円	本人及び配偶者の所得が扶養親族数0人で622万円以下	償還払い	×
福井	おおい町、池田町	母子健康手帳交付日から出産月の翌々月末(池田町:出産後1年に達する月の末日まで)	なし	なし	償還払い	○
和歌山	印南市	妊娠届出受理日から出産完了日	なし	なし	償還払い	×
岡山	矢掛町	母子健康手帳の交付月の初日から出産月の翌月の末	1人につき8万円まで助成	なし	償還払い 8万円限度	×
大分	臼杵市	母子健康手帳の交付月の初日から出産月の翌月の末	なし	なし	償還払い	○

2020年1月10日現在(自治体ホームページ等より保団連地域医療対策部会作成)

長崎県知事
中村法道 様

長崎県保険医協会
会長 本田孝也
(会員：医師・歯科医師 1,900 人)

妊産婦医療費助成制度の創設に関する要望書

貴職におかれましては、住民の健康と福祉向上のため、日夜ご尽力いただき、深く敬意を表します。厚生労働省は、2020 年妊娠届は「前年比 4.8%減の 87 万 2227 件」と発表しました。新型コロナウイルスの感染拡大は大きく、今年度の出生数は 80 万人を割り込むことが予想され、我が国の人口減少問題は深刻さを増しています。

当協会では、子ども医療長崎ネットと協力して、妊産婦医療費助成制度に関する県民対象のアンケートに取り組みました。子育て世代を中心に県民 13,000 人から回答がありました。1 万人の超える回答は 2005 年の乳幼児医療費助成制度に関するアンケート以来で、関心の高さが示されました。

同制度は妊産婦の窓口負担を助成する制度です。全国的には、岩手・栃木・茨城・富山の 4 県で制度として実施されているほか、独自の事業として取り組んでいる市町村もありますが、残念ながら本県では実施自治体はありません。

アンケートによれば、全体の約 6 割が医療費の自己負担について「非常に高い」「高い」と回答し、医療費助成制度を「ぜひつくってほしい」と回答しています。自由意見では、医療費や健診、子育てにかかる経済的問題に関する切々な意見が多数寄せられ、医療費助成制度の必要性が浮き彫りになりました。

2018 年 12 月に成立した成渝基本法では、「社会的経済的状況にかかわらず安心して次代の社会を担う子どもを生み、育てることができる環境が整備されるように推進」することを基本理念として掲げています。また、日本産婦人科医会も「妊娠中には、(中略)産科的合併症だけでなく、全ての診療科領域の合併症『偶発合併症』を発症し得る」として、歯科も含めた全科での対応の必要性を指摘しており、全疾患を対象とした助成制度を求めています(2019 年 6 月 15 日・全国保険医新聞「谷川原真吾 日本産婦人科医会常任理事インタビュー」)。

アンケートでは妊娠から出産に至る間の精神的不安や産後うつ、「孤独」に対する意見も多数寄せられました。産後検診については、「ぜひ実施してほしい」「あるとよいと思う」を合わせると 9 割に達しました。

つきましては、13,000 人の県民の声も鑑みて、妊産婦を対象とする医療費助成制度及び健診制度を創設し、「どこよりも安心して子どもを生み育てることのできる長崎県」となるように下記の事項を要望いたします。併せて、アンケート結果に関する意見交換の場を設けていただきますよう重ねてお願い申し上げます。

記

- 1、妊産婦を対象とする医療費助成制度の創設について、県が率先して関係各方面との検討を開始し、実現に向けた取り組みをすすめること。
- 2、医療費助成制度の内容として、以下の事項を盛り込むこと。
 - 1) 妊産婦の窓口自己負担額を全額助成すること。
 - 2) 歯科を含む全ての疾患を助成対象とすること。
 - 3) 助成方法は現物給付とすること。
 - 4) 妊婦検診時の超音波検査等の費用も助成対象とすること。
- 3、無料の産後・産後歯科健診制度を創設するとともに、安心して制度を利用できる環境を整備すること。
- 4、妊産婦の精神的不安や産後うつに対する支援策を講じること。
- 5、妊産婦の「孤独」に対する支援策を講じること。
- 6、安心して子どもを産み、育てられる環境を整備すること。

長崎でも「妊婦さんへの医療費助成」を

子育て世代13000人の声を発表

厚労省は、6月に2020年妊娠届は「前年比4・8%減の87万2227件」と発表し

ました。少子化に新型コロナウイルスの感染拡大が大きいのしかかり、今年度の出生数はさらに80万人を割り込むことが予想されてい

ます。我が国の人口減少問題は深刻さを増しています。

青森・岩手・栃木・富山の4県では、県主体の制度を創設しています。

現在、こども医療費助成制度は全国に拡がり、家計の負担を軽減し、子育て支援の有効な施策となっていますが、同様に、妊産婦医療費助成制度を実施し、妊婦さんの負担軽減を実施している自治体は全国にあることを存じでしょうか。また、妊産婦健診の実施も自治体によって差異があります。

妊産婦医療費助成制度は、164自治体の実施し、九州では大分の臼杵市のみですが、



記者会見で妊婦さんへの支援を訴えるお母さん(上)、マスコミの注目を集めた県民の声(右)

協会では、こども医療長崎ネット(協会も加入)と協力して、妊産婦医療費助成制度に関する県民対象のアンケートに取り組み、子育て世代を中心に13000人から回答が寄せられました。

「長崎保険医新聞」2021年7月号より抜粋

※2面の関連記事は略

※要望書(別掲)は18頁に掲載

標準的な“妊婦健診”の例

厚生労働省では、14回分の妊婦健康診査として、次のようなスケジュールと内容を例示しています。
あくまでも標準的なものですので、特に「必要に応じて行う医学的検査」の内容は、医療機関等の方針、
妊婦さんと赤ちゃんの健康状態に基づく主治医の判断などによって、実際にはさまざまです。
より主体的に受診していただくために、標準的な妊婦健康診査の例をご紹介します。

妊婦健診を受けられる主な場所は、病院・診療所・助産所です。
(助産所で出産する予定の方は、助産師と相談の上、病院又は診療所でも妊婦健診を受けておきましょう。)

期 間	妊娠初期～23週	妊娠24週～35週	妊娠36週～出産まで
健 診 回 数 (1回目が8週の場合)	1・2・3・4	5・6・7・8・9・10	11・12・13・14
受 診 間 隔	4週間に1回	2週間に1回	1週間に1回
毎 回 共 通 する 基 本 的 な 項 目	●健康状態の把握…妊娠週数に応じた問診・診察等を行います。 ●検査計画…妊婦さんの健康状態と赤ちゃんの発育状態を確認するための基本検査を行います。 基本検査例：子宮底長、腹囲、血圧、浮腫、尿検査(糖・蛋白)、体重(1回目は身長も測定) ●保健指導…妊娠期間を健やかに過ごすための食事や生活に関するアドバイスを行うとともに、妊婦さんの精神的な健康に留意し、妊娠・出産・育児に対する不安や悩みの相談に応じます。また、家庭的・経済的問題などを抱えており、個別の支援を必要とする方には、適切な保健や福祉のサービスが提供されるように、市区町村の保健師等と協力して対応します。		
必要に応じて行う 医 学 的 検 査	●血液検査 初期に1回 血液型(ABO血液型・Rh血液型・不規則抗体)、血算、血糖、B型肝炎抗原、C型肝炎抗体、HIV抗体、梅毒血清反応、風疹ウイルス抗体 ●子宮頸がん検診(細胞診) 初期に1回 ●超音波検査 期間内に2回	●血液検査 期間内に1回 血算、血糖 ●B群溶血性レンサ球菌 期間内に1回 ●超音波検査 期間内に1回	●血液検査 期間内に1回 血算 ●超音波検査 期間内に1回
	●血液検査 妊娠30週までに1回 HTLV-1抗体検査 ●性器クラミジア 妊娠30週までに1回	 (平成23年4月現在)	

出産・育児に向けてアドバイスを受けましょう

妊娠中は、妊娠の経過に伴って、心とからだも変化します。
妊婦さん自身が上手に変化に対応できるよう、妊婦健診では、ちょっとしたことで医師や助産師等に相談し、
その時々生活状況に応じたアドバイスを受け、出産・育児の準備をしましょう。

◎知っておきたいこと・相談しておきたいこと

妊娠初期

- ▶妊婦健診のスケジュール
- ▶つわりの対処法
- ▶流産の徴候と予防
- ▶日常生活の注意
- ▶妊娠中の食事
- ▶出産場所を選ぶ

妊娠期間をどのように過ごすか、どんな出産をしたいか、医師や助産師とイメージをつくっていきましょう。

妊娠中期

- ▶貧血の予防
- ▶早産の予防
- ▶妊娠中によく起こる不快な症状への対応

からだの変化に伴って、思いがけない症状が起こります(腰背部痛、むくみ、こむら返り、便秘、頻尿、静脈瘤など)。

- ▶腹帯の巻き方
- ▶妊婦体操
- ▶母乳の準備
- ▶母親学級、両親学級の受講
- ▶赤ちゃん用品の準備
- ▶里帰りの時期
- ▶産後の支援者



妊娠後期

- ▶入院の準備
- ▶出産に向けての心構え
- ▶おっぱいのケア
- ▶異常徴候

産後に向けて

- ▶赤ちゃんの特徴
- ▶赤ちゃんとの暮らし
- ▶生活のリズム
- ▶母乳のおげ方
- ▶産後の体調管理
- ▶産後うつについて
- ▶家族計画



妊産婦さんの医療費助成に関するアンケート

2021 年 4 月 長崎県保険医協会／こども医療長崎ネット (tel 095-825-3829)

長崎県保険医協会とこども医療長崎ネットでは、妊娠中、産後の医療費にかかる負担を軽減し、安心して妊娠・出産・子育てできる環境をつくっていくための今後の取り組みに活かすため、アンケートを実施することになりました。お手数をおかけしますが、ぜひ、ご協力をお願いいたします。



詳細はこちらをご覧ください→ 医福懇会報 70 号

1. あなた（アンケート記入者）について

（１）年齢は？

年齢→ 1) 10歳代 2) 20歳代 3) 30歳代 4) 40歳代

（２）あなたの現在のお住まいは？里帰り中の方は里帰り先の住所をご記入ください。

- 1) 長崎市 2) 佐世保市 3) 島原市 4) 諫早市 5) 大村市 6) 平戸市 7) 松浦市
8) 対馬市 9) 壱岐市 10) 五島市 11) 西海市 12) 雲仙市 13) 南島原市 14) 長与町
15) 時津町 16) 東彼杵町 17) 川棚町 18) 波佐見町 19) 小値賀町 20) 佐々町 21) 新上五島町
22) 県外

（３）妊娠（流産・中絶を含む）・出産した経験はありますか（現在妊娠中も含む）？

妊娠 1) ある 2) ない

出産 1) ある →長崎県以外での出産の経験は？ ある（ ）都道府県 ・ ない
2) ない

2. 妊娠経験のある方におたずねします

（１）妊娠中に、健診以外に産婦人科の診療を受けましたか（現在妊娠中も含む）？

1) 受けた 2) 受けてない 3) その他

＜「受けた」とご回答の方＞

→①産婦人科での診療の場合、下記のどれにあてはまりますか？（重複可）

- 1) 妊娠高血圧症候群 2) 糖尿病 3) 貧血 4) 産科出血（初期・中期以降）
5) 心疾患 6) お腹の張り・下腹部痛 7) 腰痛 8) ふらつき 9) 息苦しさ
10) 切迫流産 11) 切迫早産 12) つわり 13) 前置胎盤 14) 双胎 15) 多胎
16) 前期破水 17) その他（ ）

→②妊娠中に、産婦人科以外の診療科を受診したことがありますか？ある場合に○をしてください（重複可）。

- 1) ある→ 1) 内科 2) 外科 3) 整形外科 4) 脳神経外科 5) 眼科 6) 耳鼻咽喉科
7) 皮膚科 8) 歯科 9) その他（ ）
2) ない

（２）妊娠期間を通して医療費や健診代にかかる自己負担は、どう感じますか？

1) 非常に高い 2) 高い 3) まあまあ妥当 4) 安い 5) わからない

（３）妊娠中の医療機関受診で困ったことをご記入ください

→裏面へ

3. 出産経験のある方におたずねします

(1) 出産後1年以内に、妊娠、出産を原因とする体の不調を感じたことがありますか？

- 1) ある 2) ない 3) わからない

＜「ある」とご回答の方＞

→産婦人科の診察を受けましたか？

- 1) 受けた
2) 受けてない →(理由:)
3) その他

(2) 出産後1年以内に、妊娠、出産を原因とする精神的な不安定さを感じたことがありますか？

- 1) ある 2) ない 3) その他

＜「ある」とご回答の方＞

→そのときに、心療内科・精神科を受診しましたか？

- 1) 受診した
2) 受診していない →(理由:)
3) その他

(3) 長崎県内で産後健診を実施しているのは4市（長崎市・壱岐市・雲仙市・南島原市）で、産後歯科健診を実施しているのは2市（長崎市・佐世保市）しかありません。産後健診、産後歯科健診についてどう思われますか？（1つのみ）

- 1) ぜひ実施してほしい 2) あるとよいと思う 3) どちらでもよい 4) いらないと思う
5) その他（ ）

4. すべての方におたずねします

(1) 他県や市では、妊産婦さんを対象に医療費の自己負担分を補助する「妊産婦医療費助成制度」があります（たとえば、富山県では妊娠に関連した疾患は出産翌月まで医療費自己負担が無料、岩手県では出産翌月まで全ての疾患で妊産婦医療費助成制度が受けられます*）。

この制度のことをご存知でしたか？

* 県や市町など地域によって対象や範囲、内容に違いがあります。詳細はこちら→

- 1) はい 2) いいえ



(2) 「妊産婦医療費助成制度」は長崎県内の市町で実施してるところはありませんが、制度の創設についてはどう思われますか？（1つのみ）

- 1) ぜひつくってほしい 2) あるとよいと思う 3) どちらでもよい 4) いらないと思う

5. 自由意見欄

行政や医療機関への要望、妊婦健診や医療機関受診の際に、コロナ禍で苦労されていることなど自由にご記入下さい

ご協力ありがとうございました。

★FAXで直接お送りいただく場合は、095-825-3893にお願いします(両面)。 アンケート回答締め切り日: 5月31日(月)

妊産婦さん13,000人の声

「妊産婦さんの医療費助成に関するアンケート」結果報告

発 行 2022年 5 月18日

発行人 長崎県保険医協会

長崎市恵美須町 2－3 フコク生命ビル 2F

TEL 0 9 5－8 2 5－3 8 2 9

FAX 0 9 5－8 2 5－3 8 9 3

<https://www.vidro.gr.jp/>